



# 新渡戸記念 中野総合病院 だより

Nitobe Memorial Nakano General Hospital

7月号

平成30年7月1日号

東京医療

住所 東京都中野区中央四丁目59番16号

TEL 03-3382-1231 (代) 夜間受付 03-3382-9991

ホームページ <http://www.nakanosogo.or.jp> E-mail [soumu@nakanosogo.or.jp](mailto:soumu@nakanosogo.or.jp)

第349号

発行人/理事長 入江 徹也

発行責任者/総務課長 横井 悟

## 消化器内科は地道に頑張っています

新渡戸記念中野総合病院 内科部長 兼 消化器内科部長 山根 道雄

消化器内科は外科(=消化器外科)との接点が多く、新渡戸記念中野総合病院では外科の先生方との風通しの良さは格別です。消化器内科が少人数ということもありますが、内視鏡の処置などは、診療科の垣根を越えて協力して診療することもしばしばです。消化器内科は、食道・胃・十二指腸・(小腸)・大腸・肝臓・膵臓・胆嚢・胆管・脾臓・腹膜・後腹膜などの炎症から腫瘍まで守備範囲が広く、新渡戸記念中野総合病院内科の中では循環器内科に次ぐ、いわば機動部隊と考えています。卒後15年以上のベテラン揃いですが、実際に歩きながら診断を考えたり、研修医を指導したり、歩くことが好きな(?)ドクターが私を含めて多いと思います。

当院消化器内科の強みとしては、外科との絆に加え、肝臓疾患が挙げられると思います。近隣の肝臓疾患を多く受け持ち、慢性C型肝炎に対する直接型抗ウイルス薬(DAA)によるインターフェロンフリー内服治療、非代償性肝硬変に伴う難治性肝性脳症・難治性腹水・食道静脈瘤破裂に対する治療や肝細胞癌(HCC)に対する集学的治療:ラジオ波焼灼術(RFA)・肝動脈塞栓化学療法(TACE)・手術も消化器外科医・放射線科専門医と協力して積極的に行っています。ずいぶん昔になりますが、劇症肝炎生体肝移植の世界第1例目[信州大学より

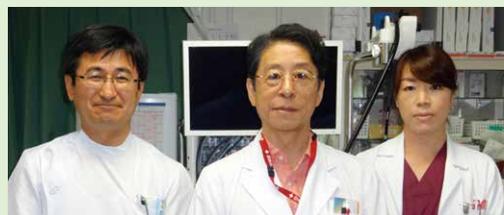
Lancet 340:1411-12,1992 に発表。日本内科学会雑誌 90:63-70, 2001 に旧病院名である“中野総合病院”にて掲載]を経験しています。

当院は東京都肝臓専門医療機関をはじめ、日本肝臓学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設にもなっています。消化器内科医の構成はこれまでどおり、入江病院長含め4名ですが、日本肝臓学会肝臓専門医3名・指導医2名、日本消化器病学会消化器病専門医3名・指導医1名・関東支部評議員1名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医1名・指導医1名の資格を有しています。

もちろん肝臓以外にも、吐下血や膵炎、炎症性腸疾患など幅広い消化器疾患に対処でき、地元の方々のお役に立てるよう待機しております。毎日常勤医が外来を担当しておりますので、消化器疾患でお困りの際には、どうぞご相談ください。

【外来】 山根:月木 前:火土 藤原:水金

写真左より  
山根、前、  
藤原



## 🍀 萬代 新太郎医師が日本腎臓学会学術総会で受賞

6月8日から10日まで新潟で開催された第61回日本腎臓学会学術総会において、当院腎臓内科の萬代 新太郎医師が優秀演題賞を受賞しました。



演題名は「WNK1キナーゼはFOXO4の細胞核内局在、転写活性を調整し、骨格筋肥大を制御する」です。WNKシグナルとその下流のNa-K-Cl共輸送体は骨格筋形成を制御し、その阻害剤であるループ利尿薬が筋再生を抑制してサルコペニア発症に関与し、さらに、WNKシグナルはFOXO4を介して骨格筋肥大を制御することを発見しました。

筋腎連関の新規メカニズムとなる発見であり、高齢者の身体機能低下の主要因として近年注目されているサルコペニア(筋肉量減少)に対する治療法開発につながるものです。

## 🍀 創立記念祝賀会で新渡戸博士の志を共有

5月26日(土)午後1時より、新渡戸記念中野総合病院2号館3階会議室にて、新入職員を含む約60名の職員が集い、創立記念祝賀会が行われました。入江 徹也病院長・山根 道雄副院長のあいさつの後、千田 佳子中野クリニック所長の乾杯でスタート。立食形式にて心地よい音楽を聴きながら、副院長による「新渡戸稲造博士の言葉」の解説が行われました。

当院は創立に尽力された新渡戸博士の今も残る遺産・レガシーであり、鬼籍に入る前年に当院へ託された志を継ぎ、「地元(地方)」をととても大切に

した博士の想いに誇りを持つことについて、新入職員に向けて語られました。

昭和7年(1932年)5月27日創立ですので、平成30年となる今年86年を迎え、平成年号最後の創立記念祝賀会となりました。



## 🍀 患者支援センターを開設いたしました

5月1日より地域医療連携室と医療福祉相談室がひとつになり、患者支援センターを開設いたしました。患者支援センター長には大野副院長が就任し、地域医療連携担当は近隣医療機関との連絡窓口を、医療福祉相談担当は相談窓口・退院支援等を行います。

従来と業務内容に変更はございませんが、紹介受診から退院支援までの情報の共有・連携を強化することにより、迅速で丁寧な対応ができるよう努力して参ります。どうぞよろしく願いいたします。

# 第18回 新渡戸記念中野総合病院 区民健康講座のお知らせ

テーマ **心臓を健康に保つ ～狭心症や心筋梗塞を防ぐために～**

日時 平成30年7月28日(土) 午後2時～3時

講師 新渡戸記念中野総合病院 循環器内科部長 武井 秀信

場所 東京都生協連会館3階会議室(中野区中央5-41-18)

定員 50名(定員になり次第、申し込みを締め切らせていただきます)

参加申し込み先 患者支援センター 連携担当 ☎03-3382-1231(内線211)  
または総合受付④番窓口



どうぞ奮ってご参加ください!

## 7月の小児救急体制



新渡戸記念中野総合病院では、中野区並びに中野区医師会のご協力を得て、小児の初期(1次)救急として「**準夜間小児初期救急医療**」を救急外来で実施しています。

一般診療所の診察時間が終わった後、お子さまが急病の際には、下記の**夜間受付電話**にご連絡のうえ、ご来院ください。15歳以下のお子さまを対象に、小児科医が診療を行います。

\*血液検査、点滴等の処置、入院等を必要とする場合は他病院を紹介します。

7月1日から31日までの準夜間小児初期救急医療体制は下記の通りです。なお、都合により医師の変更もあり得ますので、ご了承ください。ご不明な点は、下記夜間受付にお問い合わせ願います。

**受付時間** 毎日午後**6時30分**～午後**9時45分**

**診療時間** 毎日午後**7時**～午後**10時**

**夜間受付** ☎**03-3382-9991**

### 7月準夜間小児初期救急担当医

日	月	火	水	木	金	土
1 右田 王介	2 小須賀 基通	3 金 慶彰	4 宇都 ちひろ	5 堤 範音	6 清水 泰岳	7 保崎 明
8 清水 泰岳	9 小須賀 基通	10 高梨 栄	11 多田 光	12 木村 将裕	13 右田 王介	14 清水 泰岳
15 亀井 宏一	16 右田 王介	17 渡辺 仁	18 山田 正興	19 堤 範音	20 亀井 宏一	21 清水 泰岳
22 右田 王介	23 小須賀 基通	24 山田 正興	25 宇都 ちひろ	26 木村 将裕	27 亀井 宏一	28 亀井 宏一
29 清水 泰岳	30 小須賀 基通	31 細谷 直人				

新渡戸記念を支える

## 職場紹介

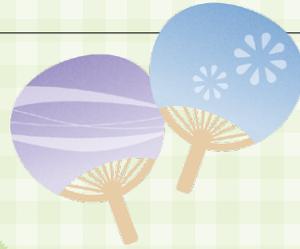
# 薬剤師がもっと身近な存在に！ 薬剤科

薬剤科長 高松 登

薬を扱う専門職として、私たち薬剤師は病院のさまざまな場所で活躍しています。以前は医師の処方どおりに調剤したり、薬の管理や払い出しを行うなどの業務にとどまっていたのですが、現在では薬学的な知識や技能をもとに、適正でより安全な薬物療法の提供を目指しています。

電子カルテや検査データを確認しながら、患者さんの状態に合った処方提案をしたり、処方された内容のチェックや最適な調剤方法、投与方法の選択をしたり。そして、患者さんが薬のことを十分に理解され、正しく服用されるための服薬指導の実施、服薬後の副作用の有無の確認まで、仕事は多岐にわたります。

6月から薬剤師による病棟業務を充実させ、より皆様の身近な存在となりました。薬に対する不安、不明な点は、どうぞ薬剤師にお声かけください。



## 新渡戸 の 言葉

今年の大河ドラマ「西郷どん」の主人公である西郷隆盛(1828-1877)を新渡戸稲造先生は私淑し、敬愛の念を抱いていました。文久2年(1862年)、盛岡藩士の子として生まれた新渡戸先生は6歳で明治維新(1868年)を迎え、明治10年(1877年)9月に15歳で札幌農学校へ入学しますが、その月に城山で西南戦争が終結しています。札幌農学校の同期(2期生)で親友の内村鑑三も著作『代表的日本人』(原題:The Representative Men of Japan)の中で、その筆頭に西郷隆盛を挙げています。現代の感覚からすると新渡戸先生とはちょうど親子ほどの年齢差がありますが、「西郷どん」は武士でもあった新渡戸先生が心から尊敬していた人物です。

新渡戸記念中野総合病院副院長 山根 道雄

西郷南洲翁の書かれたものの中に、「人を相手にせず天を相手とせよ。天を相手として己を尽くし、人をとがめず我が誠の足らざるを尋ぬべし」という句がある。僕は金言だと思っている。

『修養』第二章より

新渡戸 稲造